

決算審査特別委員会会議録

1. 日 時 平成23年10月17日(月曜日)
午前10時00分～午後1時分
2. 場 所 委員会室
3. 出席委員 徳並伍朗 委員長 高木法生 副委員長
安富法明 委員 南口彰夫 委員
大中宏 委員 河村淳 委員
村上健二 委員 原田茂 委員
山本昌二 委員 田邊諄祐 委員
柴崎修一郎 委員 荒山光広 委員
西岡晃 委員 河本芳久 委員
下井克己 委員 岩本明央 委員
山中佳子 委員 三好睦子 委員
萬代泰夫 委員 有道典広 委員
岡山隆 委員 馬屋原真一 委員
秋山哲朗 議長 布施文子 副議長
4. 欠席委員 なし
5. 出席した事務局職員
重村暢之 議会事務局長 岩崎敏行 議会事務局主査
岡崎基代 議会事務局主査
6. 説明のため出席した者の職氏名
村田弘司 市長 林繁美 副市長
波佐間敏 総務部長 田辺剛 総合政策部長
金子彰 市民福祉部長 伊藤康文 建設経済部長
福田和司 総合観光部長 久保毅 上下水道事業局長
倉重郁二 総務部次長 奥田源良 総務部財政課長
小田正幸 総務部税務課長 篠田洋司 総合政策部次長
秋枝秀稔 建設経済部次長 永富康文 教育長

山 田 悦 子	教育委員会事務局長	坂 田 文 和	消 防 長
古 屋 勝 美	会 計 管 理 者	藤 井 勝 巳	美東総合支所長
杉 本 伊佐雄	秋芳総合支所長	石 田 淳 司	教育委員会事務局次長
千々松 雅 幸	病院事業局経営管理課長	西 山 宏 史	監査事務局長
西 田 良 平	農業委員会事務局長		

午前10時00分開会

委員長（徳並伍朗君） おはようございます。只今より決算審査特別委員会を開会いたします。12日と13日におきまして、議案第16号から第25号までの全ての決算について、説明、質疑が終了しましたので、本日は総括的な質疑を行います。その後、討論、採決を行いますので、よろしく願いをいたします。なお、只今、机上に配付しております資料は、先の本委員会で岩本委員の質疑にありました平成22年度就学援助事業に係わる資料と、河本委員の質疑にありました市内社会教育施設等の利用者数等の資料であります。ご確認をお願いいたします。また、安富委員の質疑に対する答弁が執行部よりあります。はい、田辺総合政策部長。

総合政策部長（田辺 剛君） はい、それでは、先日の10月12日の当特別委員会において、安富委員からご質問があった件についてお答えしたいと思います。監査意見書の中にあります公益的団体への支援のあり方について、執行部としての考えと今後の対応についてというご質問でございました。各団体の性格、設立経緯というのが様々でありまして、中には、今回の山口国体の実行委員会ですとか、JR美祢線利用促進協議会など、行政が主体となって設立し、事務局をもっているというものもあります。また、現在、自立的な運営がなされていない団体、すなわち公益的機能を果たしていない団体というのは、一概に断定できないというふうに考えております。ただし、監査意見書の中の指摘のとおり、市が財政支援を行っている団体は、その運営、事務処理等、自立的に行うことが望ましいということは十分に認識しております。現在、総合政策部の地域情報課が、各団体の活動実績、財政的、人的支援の実態を調査中でありまして、取りまとめましたら、後日、議会のほうにもお示ししたいというふうに考えております。今後、この調査結果をもとに、行革推進室、それから財政課、地域情報課でそれぞれ所管課に対してヒアリングを実施し、団体ごとに出来るだけ、自立するように促すと共に、人的支援、行政の支援が必要な団体については、適正な支援のあり方、また、それぞれの団体に対して財政的支援が必要なのか、必要な場合は、適正な金額はどの程度の補助金なのかということも含めて、精査をすることを考えております。なお、現在、公益的な団体の登録制度というのが他の地方公共団体で実施されておる例もあります。これについて、実施に向けて調査、検討を行っております。また、認証制度についても、今後、調査検討をしたいというふうに考えております。以上でございます。

委員長（徳並伍朗君） 安富委員。

委員（安富法明君） はい、今、答弁があったわけですが、今から調査をするということのようでした。その行政の今までの合併後に3年経って、4年目になってきてるわけなんですけど、財政的な、決算ですから指数がいろいろ出てます。その全体的には、経営努力と言いますか、市全体の指数は改善されているといふうに思います。ただ、その中であって、監査委員さんでなければ分からないような特殊のようなところも実は、当然あるわけなんですけど、合併後、なお従前の何て言いますか、形態、組織の運営というものを引きずってきてる。引きずるといってちょっと語弊があるのかもしれませんが、踏襲して検討が足りない部分も確かに指摘のとおりあるだろうというふうに私たちも推測できます。そういうことでありますので、是非、組織の健全化っていう自立、健全な組織っていうことを踏まえて、いい意味で検討を是非、進めるべきだというふうに思いますから、もし検討の結果も揃いましたら、また議会なりにも報告をしていただきたいというふうに思います。よろしいですか、それで。

委員長（徳並伍朗君） それでは、村田市長が出席をされておりますので、これから一般会計、特別会計の全会計につきまして、総括的に審議を行います。市長さん、報告等ございませんか。

市長（村田弘司君） ございません。

委員長（徳並伍朗君） それでは、これより審査を始めます。議案第16号平成22年度美祢市一般会計決算の認定についてから議案第25号平成22年度美祢市後期高齢者医療事業特別会計決算の認定についてまでを関連がありますので、一括して審査をいたします。それでは、質疑を行います。はい、南口委員。

委員（南口彰夫君） 22年度の決算に係って一括の質疑ということなんで、村田市長にお尋ねをしたいと思います。この主要な施策の成果報告にも書かれていますが、とりわけ、美祢市においては、市税の減収が見込まれると。そうした中で何が必要かということで、人件費などの経常的経費の削減に努力しているところであります。さらに高齢化社会の到来に伴います社会保障費、医療費などの拡大で、財政状況は厳しいものとなっております。こう指摘をしているわけですね。じゃあその中で、今後、美祢市の中で何が必要かということについては、若干残念ながら、そのじゃあ具体的にその市の税収、入ってくるものが減りますよと。減ってくる傾向にありますよと指摘しておきながら、人件費などの経常的経費の削減の努力だと。しかしながら、高齢化社会に伴う社会保障費、医療費などが増大してくる

と。財政状況は、非常に厳しいものとなってきておるといふ指摘がなされておるんですが、この1年間の事業を振り返ってみて、税収を上げるといっても地元の企業、それこそ戦前、戦後、何十年って地元で非常にこつこつ努力しながら、ある面美祢市の経済を非常に大きく担っている宇部興産。宇部興産がじゃあ、地元との関係で何十年来の付き合いの中で、今後、宇部興産がどういう企業努力で美祢市のまちに貢献していくのかと。これは、先立って、宇部興産の本社の社長が宇部市も含め日本の中で果たす役割と、年頭で述べられている記事を見て、なるほどなど。美祢市とは出ていなかったんですが、美祢市も入ってるんだろなあということで受け止めました。ところが、じゃあ具体的に美祢市長がこの1年間何を思いを込めて、効果が成果が直接的にあがったかどうかという、重箱の隅をつつくような質問ではありません。どうした思いを込めてこの厳しい財政状況の中で、社会保障、医療費、こうしたものにどう対応していくために、税源を確保、具体的に確保していくこととなされたかといった点をお聞きしたいと思います。とりあえず。

委員長（徳並伍朗君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 南口議員のご質問でございますけども、確かに今、我々美祢市だけではない、地方自治体の置かれておる財政状況というのは、依然として非常に厳しいものがあります。ちょっと音が響いていますかね。いいですか。確かに美祢市は、合併して以降、非常に財政努力を進めて参りました。そのことによって結果として、今回の22年度決算でも出ておりますように、あらゆる財政的な数値は、合併直後に比べて良くなってきておる現実がございます。しかしながら、今、市税のことを幾度かおっしゃいました。市税がもっておる我々、全体に対する収入の割合ですけれども、今回の監査意見書のほうの中にもありましたように、一般財源として考えた場合の市税が、自主財源の中の割合で言えば、平成20年度には20%確保しておったのが、21年度には18%台、そして22年度には17%台ということで、市税というのは、あくまで我々が市として市民の方をお願いをして、財源としてもたらしていただいておりますので、自主的な財源として非常に大切なものですが、その割合が下がってきておるといふことは、裏を返せば、それだけ市の財政的な運営は厳しくなってきたおるといふことの裏返しということが言えるというふうに思っております。今、宇部興産のことをおっしゃいましたけれども、法人市民税につきましては、平成21年度に対しまして22年度は、法人市民税はかなり良くなってきております。しかしながら、個人市民税のほ

うがなかなかそういうふうな調子になっていないということがございまして、皆さん大変な生活を強いられてきておる。これから年金制度も改革をされますし、いろんな面で自主的な収入ですね、これが下がってくると、これが目に見えております。その中で皆様が持っておられる自主財源としての市税をいかにきっちり確保させていただくかということは、これからの市にとっては、大変大きな部分を占めてくるだろうというふうに思っております。市税だけに係わらず、いろんな料とか民法上に係わるものも含めて、いかような形で市民の方にお話をさせていただいて、そして、そのお金をいただく体制を整えていくかということも肝要になってくるというふうに思っておりますので、その辺も含めて、これからも対応していきたいというふうに考えております。以上です。

委員長（徳並伍朗君） 南口委員。

委員（南口彰夫君） この、とりわけ平成22年度的美祢市一般会計予算、当時ですね、予算については日本共産党は、反対の態度をとりました。その反対の態度の最も大きな理由は、予算の編成の個々の問題ではなく、市長のそう言えば、そういう言い方をすれば、政治姿勢、これが本当に住民の目線に立って市民の生活に根ざした形で予算で組まれているとは言い難い。どうしても今の地方自治、美祢市もそうなんですが、国の予算編成、県が行う事業、そうしたものにどうしても目が向いて、その上で予算が組まれているという指摘をいたしました。先程の発言で宇部興産の社長の年頭あいさつだったと思うんですが、今、少なくとも、例え大企業であろうが、特に地域の山口県の地域に根ざして、それこそ100年の歴史を持つ宇部興産も、企業の社会的責任、社会的に果たす役割、こういうものを念頭に置きながら、頭に置きながら、どういう業績を上げていくんかといった点で、非常に深刻な中でも、どう伸びていくんかということが、非常に大事だという思いを持たれているわけですね。例え美祢市内の中小企業であったとしても、金儲けのために仕事をしているという経営者やリーダーは、もう既に淘汰されていないんですね。ですから美祢市内の中で、頑張っておられる企業、中小企業も含めてですね、やっぱり市政の発展、美祢市の発展の中にこそ、自分の生きがいや生き方を支えている会社なり企業があるんだと。そういう思いで事業を続けているのが、リーダーの本音だろうと思います。そうした点で、市長がじゃあ具体的にどうなんかという形で、行政と地元の企業が一体となり、取り組んでいくということの中にこそ、それこそ市民の生活の豊かさ、一つは経済効果だけでなく、お金の効果ですぐ表れるかと言やあ

別ですが、そうした取り組みの中にこそ、新しい美祢市と同時にやっば豊かな美祢市のまちづくりがあるのではないかと思います。そういった点で、22年度の決算を見るならば、そうした取り組みがあるようには伺えないんですね。その一点として、日本共産党も含めて、全国の中小の商工団体、商工会等が取り組んでおる取り組みを美祢市でもということ、日本共産党の三好議員が先の本会議だったと思うんですが、リフォーム、家の中のリフォーム予算を見直したらどうかといった取り組みが一層、今後、現在も当時三好議員は山陽小野田市で市長が積極的に取り組んでいると。その意味は、十分な説明をしたはずなんですが、今、美祢市が福祉の関係で家庭のリフォームと言え、20万程度の限度額なんですね。それを100万、200万でも増やすことによって、一番地元の中小、零細の中で、職業的には左官屋さんとか大工さんとか板金屋さんとかいうことで、家のリフォームを組み合わせれば、リフォーム事業を美祢市が新たに組み合わせれば、それがもたらす地域の経済効果は、全国的にも非常に大きなものをあげている地域、行政がたくさんあるということ、これを述べていますが、その後、その取り組み状況についても、市が調査なり、検討なりした形跡が全く見られないんですね。私は、市長がそういう意味では、市長そのものが出られたのが前市長もそうなんですが、官僚出身だと。なかなか官僚の枠の中から、体質から抜け出すのは大変だろうなど。率直に意見を述べたことがあります。官僚と言やあ、役人ですね。公務員。歴代続いた弱点がこの4年間、さらに先日出馬表明をされましたが、さらに引き続く4年間の中で、この弱点が最も大きく出ることを危惧して参りました。そういう点からいくなれば、もっと、その殻を破って先程述べたように宇部興産そのものが、伊佐セメント工場も含めて工場長や宇部マテの工場長の方々を含めて、それに関連する地元の中小のみならず、先程述べた小さな左官屋さん、大工さん、板金工も含めながら、地域の中でどのように頑張っていこうとしているのか、また、行政がやっぱり地元経済効果って言えば民間が頑張らなければだめなんですね、そういう中でも積極的なお付き合い。私が言っているのは、飲んだり食うたりじゃあないんですね。そういう意味じゃあ市長を始め、公務員の皆さんは、非常に清廉潔白な公務員であるということについては、一念の疑いも持ったことはありません。ところが、あまりにも清廉潔白、企業と一線をおくという姿勢が、逆に行政が、先程述べたやっぱり官僚、公務員の枠から抜け出ることができないというところにある面弱さを感じているわけです。そうした意味での取り組みが、この22年度の1年間の実績を見ても、日本共産党の三好議員

が提案した事業も含めて、そういう意味で実際にどうなのか。検討も含めてなされてきた経過がないので、そういう弱さを今後も引きずるのではないかということ、私は心配をしております。そうした点で、市長のご意見をお尋ねしたいと思えます。

委員長（徳並伍朗君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 南口議員。質問が長かったんで、何をお聞きになりたいかわからなかったんですが、ただ途中でかなり私のことを腐されたのは記憶に残っております。まず一点ですね、宇部興産のことを申されましたけれども、確かに宇部興産、本当にこの美祢市で頑張っていたいております。今、おっしゃった社長竹下さんとおっしゃいますけれども、社会的な使命、宇部興産というのは東証一部の大企業です。国家的な世界的な企業ですけれども、その主力鉱山が美祢市にあるということで、美祢市に対する思い、山口県に対する思い、日本国に対する思い、非常に大きなものがございます。我々というのが竹下社長がおっしゃったのが、確かに経済活動を興して儲けるためにやっておるけれども、その結果が一つに自分たちの会社にだけに集まって、それで良いと、良しとするもんじゃあないというのが理念であるということをおっしゃってました。確かにおっしゃるとおり。そのことによって宇部興産というのは、社会的な信頼度も厚いですし、着々と実績を上げられて、この美祢市でもありがたい存在としてあるというのを、私も実感をいたしております。民間企業というのは経済活動をされる。先程申し上げたように、それは利を得るため、利潤を追求するためにやるんが当たり前のことです。その結果として、この社会的のこの富を還元して行って、社会全体を豊かにしていくということが起こってまいります。翻って我々、この行政に仕事ですけれども、もっとありがたいことに行政の仕事というのは、パブリックのサービス、公共サービスを担わせていただいておりますということですから、直接的に市民、県民、国民の福祉、生活の向上のために仕事をさせていただいておりますということですから、民間の方々よりもありがたい仕事をさせていただいておりますんじゃないかと私は思っております。一点、先程私にしる、前市長にしる、官僚出身で殻が破れんのじゃあないかということをおっしゃいましたけれども、今、市の職員がいっぱいいますが非常に優秀です。私は、市の職員でようおらんやったから、今、市長をしておるんですよ。殻が破れたと言うよりも底が抜けてしもうたんかもしれませぬ。その意味においても、私は官僚を経験しておった。市の職員を行政を経験しておった。そのキャリアを大事にし

ながら、その上で私は行政のトップでもあるけれども、一方では政治家でもあるんです。今、南口議員もそうですし、市会議員の方々は政治家です。市の長、町の長、地方自治体の長というのはですね、政治家であると同時に行政のトップであるという二面性を持っております。ですから、私は行政を経験したそのことをコアの材料として、政治的な立場として、大きな視点を持って、いろんな仕事をさせていただいておるといふのは、私は自信を持って言いたいと、申し上げたいというふうに思っております。ですから随分私のことを南口議員、心配していただいておりますように大変申し訳ないなというふうに思っておりますけれども、今、我々の市が人口が減ってきておる。経済活動も低くなっておるんじゃないかと。先程税収のことをおっしゃったけれども、税も下がってきておる。だから、この美祢市というのは灯がしだいに消えていくように下がっていくんじゃないかというふうな思いを込めて、危惧感からおそらくこの質問をされたんだろうと思いますけれども、私は美祢市というのは、いろんな面を持っておる。今もこの早朝ですね、中国から30人近い方々が使節団として来られまして、今あいさつをして来たばかりですけれども、その時私は自慢を申し上げた。先程、宇部興産を含めた年間1,700万トンのセメント石灰石を出しておる日本最大の産業地でもあるし、秋吉台を中心とした素晴らしい自然を持っておる観光立市でもあるし、そして何よりもここ見回してもろうたら、美しい山と田んぼと素晴らしい人が住んでおられる、非常に多面的な素敵でな市ですよということを申し上げた。こんな市が灯が消えるようになくなるはずがないんですよ。ですから、私はその思い、自信を持って、また責任感を持って、いろんな政策、施策をさせていただいております。その結果の数字が今度の決算ということです。ですから、南口議員、何もやっていないとおっしゃったけれど、よく見てください。勉強が足りておらんんじゃないかと思っております。以上です。

委員長（徳並伍朗君） はい、南口委員。

委員（南口彰夫君） 日頃から市長はよく行政も一つの経営だと。私はそのトップでリーダーだと言われるんですが、ところが残念なことに、企業のトップは大企業であろうが、零細企業であろうが、責任というのが伴うんです。リーダーがちょっとした過ちを犯せば赤字が出るんですね。そうするといろんな社長が美祢市内にいますが、ほとんど山銀に行ってお金を借りてきて、何とかしなければならぬ。その何とかするためには、ほとんどの社長は自らの生命保険を入ると同時に、自らの家屋も含めて資産を全て担保に差し出すわけです。ですから失敗をしたら、よくあ

るんですね、自ら責任を取って生命保険で悪いが返しちよってくれと。ところが、行政のトップとか行政の市長がいくら言われても、親方日の丸なんです。これ民間でよく言う言葉なんですよね。所詮、親方日の丸じゃあないか。全国ある自治体の長が、赤字再建団体になろうが何をしようが、最終的に家屋敷が取られて、自らが保険で市の赤字を補填してくれじゃあなんじゃあ、言った市長もいなければ、実際に行った市長はいないんです。ところが、毎年年間3万人の自ら命を絶たざるを得ないという中には、やっぱあ、かなりの部分でやっぱりリーダー、中小企業なり経営者、これがたくさんおられる。そうした点での私が言っているのは、村田市長がというそのものというよりも、市長というポジションにいくら経営者としてリーダーとして頑張ると言っても、限界が所詮あるんじゃないかと。それから民間を経験していないのが事実なんです。赤字を出せば、それが金額が少なくとも自らが責任を取らなければならないということについては、経験のない者については実際にわかると言ったとしても、その言葉は所詮やっぱり限界があるんだということを確認していただきたいと思います。それからもう一点、私が言っているのは、この決算書の中身を見ても、事業を見ても、そうした地元の中小企業の人たちと積極的に触れあいながら、意見を聞きながら、取り組んだ事業があるかと。日本共産党の三好議員が、全国的に商工団体連合会などが取り組んでおるリフォーム、私、よく覚えていないんです残念ながら。リフォーム何とかって言われて提案をした中身は、これは、まず地元の商工会、先程言った、いろんな職業の団体が集まっているわけですね。そういう団体との意見を率直に耳にするとかいう具体的な取り組みもなかったと。こういう事実に基づいて言ってるんです。以上です。

委員長（徳並伍朗君） はい、村田市長。

市長（村田弘司君） まず、行政のトップって言いますか、地方自治体の長が責任を取る能力がないんじゃないかと、そういう立場じゃあないんじゃないかということをおっしゃったけれども、考えてみて下さい。今、大災害を受けた東北、岩手、宮城の首長の方々が逃げ出しましたか。自分の家族を失ってでも、庁舎に閉じこもって頑張って、夜も寝んとやっておるでしょう。私も先々週、東北に行って参りました。そして原発のまへりにある田村市の富塚市長と2時間にわたって話をさせていただきました。彼が言っておられたのは、地方自治体の首長というのは、無限の責任をおっておると市民の方の命に関わる責任を負っておると。私も同感です。この覚悟がないとこの仕事はできません。逃げ出すことが出来ない仕事という

ことをまず、南口議員は認識をしていただきたいと思います。この市が、今、数字のことを申されたけれども、赤字になって責任を取ったことがない全国首長ばかりだとおっしゃいましたけれども、私はそんなことはないと思います。その責任は常に負っておる。有限会社にしろ、株式会社にしろ、全てそれは有限責任です。しかし首長の仕事というのは、私は無限だと思っております。無限にその責務を負っておる、市民に対する責任を負っておるというふうに思っています。その覚悟で私は、今仕事をしておるということでございます。そして今、また申された、結局、南口議員が何をお聞きになりたいかということがわかりました。先程おっしゃった三好議員が以前に2回にわたって質問されたりフォームですね、大工さんとか、左官屋さんとか、非常にたくさんの方々がこの美祢市内にいらっしゃいます。そして頑張っておられます。これだけじゃあなしに、本当に先程の宇部興産のように大企業もあるけれども、本当に個人経営で、それこそ無限責任を負ってやっておられる個人経営をしておられる方々がたくさんいらっしゃる。それによってこの市は成り立っておるし、この国が成り立っておるというのは、もう間違いない事実です。ですから、そこの部分に目をいかないで、光をあてないでこの国が成り立つか。これは、農林業でも一緒なんですよね。成り立たないと私は思っております。きょうもこの会議が始まる前に農林課の課長それから次長と話したんですけれども、この翌年度の来年度の事業に向けて、その辺も含めて予算編成を出してくれと。私はそれで査定を行うからということと言ったばかりですけれども、今のリフォームに関することも、いろんなご意見を頂戴をいたしました。その辺も踏まえて今、原課のほうにどういうふうな形で我々がやっていけば、財政的なこともありますから、財政的、全体的な財政的なことを考えて、市の根幹をこかしちゃあいけませんので、それを大事にしながら、いかにすれば、そういうふうな形で一生懸命に頑張っておられる、個人で頑張っておられる方々にお力を与えることができるか。それがひいては、美祢市全体の活性化につなげることができるかということも含めて、今、翌年度の予算編成の時期に入っていますから、もうやりなさいよという指示をしております。ですから、それがまた私のほうに査定という形で返ってきますから、国で言えば、事業仕分けに当たります。私が今一人で事業仕分けをしておりますけれども、もう、ばしばしやっていこうというふうに思っておりますので、もし事業仕分けの結果が気に入らなかつたら、また一般質問等でやっていただきたいと思いますというふうに思っております。以上です。

委員長（徳並伍朗君） 岩本委員。

委員（岩本明央君） きょうは、教育長を始め教育委員会のほうから資料をいただきまして、大変ありがとうございました。先般いただきました意見書の49ページ、50ページですが、これは、かつて旧市町村台帳と理解してよろしいでしょうか。この資料は、大変貴重な素晴らしいデータだと思っております。実は、先般私が職員さんの数をお尋ねいたしました。28名ほど退職をされまして、採用が12名ということで、16名ほど職員さんも減っております。実は、この旧市町村台帳の中にラスパイレス指数が入っていないように思います。それで、私が今申し上げましたように、職員さんも数が減っておりますし、大変まじめに真剣に町の行政執行に努力しておることを認めております。出来れば市町村台帳にラスパイレス指数を記入してもらったら、美祢市の市の職員さんの給料が国の職員さんの給料と比較して、私はだいぶ96.8ぐらいやったかな。安いんじゃないかと思って、先般の新聞なんかの資料で確認しております。せっかく空欄もありますし、このような素晴らしい資料もデータもありますので、そのようなことも記載をしていただきまして、また県内の13市6町のラスパイレス指数の、職員さんのラスの比較も出来ると思いますが、その辺のお考えを、先に向けて市長のお考えをお願いしたいと思えます。

委員長（徳並伍朗君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 岩本議員、今、新聞等のことをおっしゃいましたけども、よく調査をしておられるなと思えました。ラスパイレス指数と言うのは、今、MYTを見ておられる方がよく分からないと思えますけれども、それぞれ自治体の給与水準をある一定の線引きをして行うということで、100が普通ということで考えていただいて結構です。それが100を超えると高い、100を下回ると低いということで、これは、国家公務員の数値が基準となっておりますから、国家公務員を100とすれば各地方自治体がいかなるレベルで給与水準にあるかということですので、この美祢市は、確か今、山口県で最も低いだらうというふうに私は思っております。96%台だったかな。ぐらいだと思います。それで、確かに市町村台帳、別名が決算カードとも言いますが、こういうふうな形で一枚紙に整理をされて、あらゆる各自治体の財政的な状況が一目でわかるようになっております。これは、各自治体が勝手に財政的な資料を作ってしまうと、比較をするとき非常に難しいということで、統一的にされておるものです。ですから、このページは、美祢市が独自

で作ったというよりも、全自治体が比べられるように、同じ様式をもって作ってまずんで、それに従って作らさしていただいておりますというものです。今、おっしゃいましたように、このラスパイレス指数が入れられますと、各自治体の給与水準がはっきりわかりますので、まことおっしゃるとおり、これが入るといいなあとも思いました。うちだけが単独でこの表を変えることは出来ませんが、参考資料としてそれを加えたものをお作りをするということは不可能ではないというふうに思っていますし、ひいて言えば、全国的にラスパイレス指数を入れた表を統一的に入れていけば良いと思いますけれども、ただ給与水準が高いところの自治体が抵抗される可能性もあります。我々は、入れさせてほしいんですけどね。まあそういうことですんで、今の回答でちょっとご了解を賜りたいというふうに思います。以上です。

委員長（徳並伍朗君） はい、岩本委員。

委員（岩本明央君） 是非、ご記入のほどよろしく申し上げます。私は、大変ちょっとラスの説明が不足でご無礼したんですが、さっき申し上げましたように職員さんも大変減って大変努力しておられますし、また給与水準も県内でも低いほうになっておることは承知しております。そういうことで、こういう資料、県に提出される様式だっていうことも知っておりましたんで、あえて質問したんですが、是非こういうふうなことで、こういうふうな素晴らしい資料、データはよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

委員長（徳並伍朗君） はい、岡山委員。

委員（岡山 隆君） それでは、最初に美祢市におけるマクロ的な財政面についてお尋ねしたいと思っております。平成22年度の美祢市における歳入については、まあ説明がありましたけれども、192億5,000万円。そして歳出が180億1,000万円ということで、こういった歳入歳出の状況となっております。それで、今回そういったことを踏まえまして、美祢市における会計別借入先の地方債残高、これをいろいろ見て勉強もさせていただいたんですけども、普通会計、そしてまた公営事業会計踏まえて、地方債残高というのは、合併当初前の平成19年度では、359億2,256万円ありました。それで、平成22年度の今回の会期末におきましては、この地方債の残高が318億4,225万円ということで、私はこの合併後、3年7、8ヶ月でこの借り入れているこの地方債の残高が41億円減ってきたということは、私は高く評価はしております。逆に合併後、民間の方が市

長さんになるよりは、合併当初、よく美祢市の行財政のことをよく理解をしているその市長さんのほうがかえってよかったんじゃないかと思っております。そういった行財政のことはわからない、もし市長であれば、ここまでの実際、借り入れの地方債の減らしが41億も本当に減ったんかどうか、そういったところを思うと、そういう面ではよく物事が見える人がされてよかったかなと、そのように思っております。いずれにしてもこれからは、全然これからというのは、ある程度ベースが出来たから、逆に市民感覚の経営感覚を持った人が逆にいいような気がするんですけども、そりゃあ、それとして、村田市長もそういう目線で、感覚で、視点で、市民の目線でやっていただけという方向であるとは思っております。それで、そういった中であって、その市債の残高のこの一般会計がですね、19年度合併前が193億8,000万円、平成22年度末が181億、約12億、一般会計だけの市債残高が12億円減ってます。それとその中の普通債で、総務費未償還元金というか、そういったことが13億程度ありますけれども、その件。また、その他の部分で退職手当債など含めた、こういった額というのが、70億程度になっておるということで、その辺をしっかりと見ていきますと非常に今申し上げた形で、実際平成22年度には、合併前に比べて41億の地方債の残高が減ったっちゃうことで、今、私が説明したとおりであります。それで、今後、今現在、今回監査委員等で、平成22年度における決算に係る健全化基準比率審査意見書等がありますけれども、実質公債比率が平成20年度よりは、17.3、今回の平成22年度では、16.7です。それで早期健全化基準というものがありまして、それが25%ですから、それよりも指数としては低く収まっております。そういうことで、何が言いたいかと言いますと、問題はこの借り入れ地方債、今現在318億円程度になっておりますけれども、今後これを実質公債比率なんかも考えながら地方債を美祢市として地方自治体として財政をどこまでこの辺をへらしていくか。その分岐点はどこにあるのか、この辺、もし判断していただければ、その辺の説明をしていただきたいと思っております。

委員長（徳並伍朗君） はい、村田市長。

市長（村田弘司君） 岡山議員、非常に良く財政的なことを分析しておられますね。確かに今、おっしゃった実質公債比率、これは標準財政規模と言いまして、美祢市なら美祢市の人口規模等勘案しまして、標準的な財政的な規模を分母といたしまして、将来返していく借金ですね、市債ですね。元金それから利息の部分を分子

にして、基本的に言えば、他にちょっと他の数値が入りますけれども、その割合が小さければ、分母が標準財政規模ですから、上の借金に当たる部分が小さければ小さいほどいいというのがわかります。これは、合併直前に比べて随分、今、下がってきています。右肩下がりで下がってきています。実は、この借金に当たる部分、小さいほうがもちろんいいです。どのお宅でもそうでしょう。家庭で生活をしておられて、ローンとかないほうがいいですよ。無借金で家庭生活を送っておられるのが一番いいでしょう。国にしろ、県にしろ、市にしろ借金がないにこしたことはないというのは事実ですけれどもね。実際に言いますと、例えば大きな事業をしようとするときに、その事業が100億かかるとしましょうか。単純に言って。100億の金を今あるお金で、はらぎり持っているもので、全部出してやってしまうということもやってやれんことはないかもしれないけれども、そうするとその瞬間に財政力がガタンと落ちます。長期的に考えた時に、運転資金に充たる部分は、必ず留保しておく必要があるということが一つと、それとこの国にしろ、県にしろ、市にしろ、ずっと住んでおられる方が、その時代に住んでおられる方が、例えば100年後に住んでおられるわけではない。方もいらっしゃいますけれども、基本的には違うでしょう。代も変わってきます。ですから、借金に係るもの、その例えば大きな公共的な施設を建てたとします。それが、その時に住んでおられる方に対するサービスだけではないということも、ご理解をいただきたい。その次の世代、その次の世代に対してもその素晴らしい福祉に関する建物を建てたとしましょうか。それは効果があるということです。ですからその世代間負担ということも含めた意味において借金というのは起こして、ある程度は起こしてしかるべきだと思います。ですから、その借金は世代間で賄っていくという考え方もあります。ですから、国の借金が非常に増えておるということで、これは異常なほど太いですから、私も心配をしておるんですが、ただ、借金部分が、国民の非常に優秀な国民が、ほとんどその貯金で賄っておるということで、自己完結しておることによって、国の市債の評価がある程度高いものになっておりますけれども、現実的にはちょっと厳しいものだなと思っております。我々の市はそういう状態ではありませんので、健全な形で借金をさせていただいていこうと思っておりますんで、損益分岐点に近いような形で聞かれましたけれども、それは、どのくらいが適正かっていうのは、なかなか申し上げにくいところがあります。その時にどういうふうな形で、公共的な大きな工事をしていくかということもありますから、そういふような基本的な考え方だけ、私のほう

からさせていただきたいと思います。以上です。

委員長（徳並伍朗君） はい、岡山委員。

委員（岡山 隆君） それで、私、今回の会計のしっかりと精査させていただいておりますけれども、今回、国庫支出金で特に災害復旧費、昨年、一昨年とあったということで、かなり十数億の、まあこういった形で国からお金が入っているわけですね。それで、平成22年度は、そういう形で国庫支出金はかなり入ってきたと。復旧に対して国が、国、県の補助金で充てるために入ると。同時にやっぱし、私は美祢市も手出しをしっかりとやっぱし、やっていかなくちゃあならない。そういう負担分もありまして、その部分も市債の発行が、かなり多く発行しているなと思います。3年前、平成20年頃、逆に水害とか被害、全然なかったですから、そういったときにはどうなかと、市債の発行状況を見ますと、逆に何もありませんから、やっぱし、公共下水、水道とか、そういった事業を住民サービスを行うために、この時も市債を結構発行していると。なかなか両方の面で市債を発行してバランスをとって、この美祢市にあって仕事を公共自治体として発行して、地方の活性化を本当にバランスよく調整しているなということ、改めてその辺を教えていただいているわけでありまして、そここのところを今後、逆に国庫支出金が入っても、毎年2年連続で赤字国債を44兆円を発行して、何か本当に逆に国の借金が900兆を超えて、もう1,000兆に、本当に心苦しい面があるんですけども、ということで問題は、今後、そういった今回は、災害があったということで、地方債が出たということでいいです。今後、要するにその辺のないときも起債を起こしているっっちゃうことで、その辺のバランスについては今後どういう形を取られるか、ちょっとその辺についても、ちょっとお尋ねしたいと思います。

委員長（徳並伍朗君） はい、村田市長。

市長（村田弘司君） よく気が付いていただきました。本当に今回の大水害がなかったら、実は30億円を超える貯金に当たる部分、基金を留保しております。ですから、合併時に比べてかなり貯金額も増やしていただいております。実は、ある程度まだ増やすつもりだったんですよ。その予定で進んじょったんですが、この大水害によって、大きなお金が必要となりました。もちろん国なり県からの補助金等頂戴をいたしましたけれども、しかしながら、市として単独でお金をかなりのものが、大きなお金を出していく必要がありましたので、それがあがために財政力を落とすことができませんでしたから、その辺のバランスも考えて、財政運営をさしていた

だいております。ですから、ああいう災害がありましたけれども、美祢市の財政力は、落ちておりませんので、ご心配していただく必要はないというふうに思います。市民の方もご心配される必要はないです。今、きっちり財政運営していますから。今、こういうふうな災害がなかったときには、どうされるかということをお聞きになりましたけれども、今、我々の市というのは合併市です。特に美東町、秋芳町というのは、旧郡部でしたから、その社会的なインフラですね、社会資本の整備が、この旧美祢市に比べて遅れてきておるといふこともあります。ですから、その辺も含めて、この新しい市ですから、もうこれは一体となってこの美祢市にお暮らしをしていただいております限りでは、同じような条件で暮らしていただくというのが私の理想でございますので、その辺をきっちり美祢地域も含めて、バランスの良いインフラを整備していくことを考えております。ですから、先程申し上げたように、そこのインフラを整備したことは、ずっと長年にわたってそこにお住まいになる方の効果につながっていきますから、ある程度の借金はさしていただくけれども、過剰な借金はいたしません。ですから、国が失敗したのが、選挙のことを考えられたかどうかはわかりませんが、俗に言うばらまき、どんどんやっちゃったがために、大きな借金を、インフラの整備はちゃんと進んだかもしれませんが、それを超える借金を次世代に残して、今、行こうとしておることが恐ろしいことになっておるといふことですから、それは、私は、私が市長である間は、絶対そういうことはいたしません。その辺を考えた上で、きっちりとインフラを進めさせていただこうというふうに考えてます。以上でございます。

委員長（徳並伍朗君） ほかに、岡山委員。

委員（岡山 隆君） そういうことで、今後しっかりとバランスよく地方債の借入れについては、問題はこれからそんなに水災害とか、発生っていうのはそんなに、今後発生することはそんなにないとは思っておりますけれども、今後そういった事業がないときに、適切な地方債の発行、今後その辺の事柄については、しっかりと市民の皆さんにもわかりやすい形で、何らかの形でしっかりと示していただきたいと。公共サービスとして、今、いろいろ水道における、何て言いますか、硬度低減化の装置の件、また、その水道の配管の布設とか、そういった事業も結構私は、地方債を発行して事業を行っていかなくちゃならない事業っていうのは、目白押しにたくさん、私はあるとは見ております。そういったところで、どうか今後、その辺の地方債、多く発行しすぎてもならないし、逆に地方債を起こさないと

いうのも、またこれ問題でありますので、どうかその辺、今後とも市民の皆さんに分かりやすい形で、適切に地方債の発行について、また、その償還についても、しっかりと今後とも分かりやすい形で説明していただきたいということをお願い申し上げます。私の質問とします。以上です。

委員長（徳並伍朗君） その他、河本委員。

委員（河本芳久君） 最初に教育委員会にお礼を申し上げたいと思います。公民館等の社会教育施設の利用状況を決算のこの委員会には、総括的なまとまったものをお願いしたいと、大変よくまとまっておりますので、各公民館が地域とどう係わっておるか、数字の上でわかることができました。ありがとうございました。ただし、本来の学校以外教育の機関として、公民館が果たす役割として、各種の学級とか講座とか、そういう一つの住民の生涯学習推進のための事業が、主催事業としてどのぐらい、こう年間やって、それにどのぐらいの人たちが、住民が係わってきているか。そういうものが数字の上で出てくると、社会教育の推進状況が掌握しやすいと。これは、今後、そういった面で検討していただきたいと。次に市長さんにお尋ねしますが、農業振興について、特に誰が担い手として、次の農業を美祢の農業を支えていくかと。この点について、大変危惧しておりますので質問をいたします。農業に関する22年度の事業の概要、実施状況等をいろいろ報告していただき、そして、それに対する質疑も私はやりましたが、農業政策のハード面、基盤整備また災害復旧に係わる事業等々については、膨大な予算が執行されておりますが、5年、10年先の美祢市の農業は誰が担うのか。これを一番危惧しております。そのために今は、こういう状況だが5年後にはこう、10年後にはこうと。こういう一つのスケールに沿った担い手対策を、市独自がどのように考えておられるのか。この決算書の項目、数字の中には、そういったものが表れていないんです。というのは、5年前に国は担い手の法整備をいたしまして、特定農業団体、認定農業者、これを核としたこれからの担い手育成をやっていくという、その5年間が過ぎた今、5年間経過この3月で終わる。そうすると、そういう特定農業団体等に大いに期待されておったけれども、この団体は次には法人にならなくてはならないと。そういうハードルを設定して次に来ておりました。そして、法人になれば、非常な手当をいわゆる支援策を準備しておりますよと。これは、国、県の施策に美祢市も乗っかかっておる。そこで、美祢市の地域の活性化は農業の振興と連動しております。その農業の振興を5年後誰が担ってるんだろうか。本当に今、70歳以上

の人たちが係わっておるんです。そういう担い手に係わる施策が具体的には、ほとんどこの決算の報告書の中にはあがってきておりませんでした。特に山口農業生産拡大事業とかいう形で少しあがってきております。しかし、ソフト面における美祢市独自の県や国の施策を拡充するような対応というのが、何ら見えて来ていない。こういう意味で市長として、美祢市は中山間地で、やはり地域の活性化は農業にあるということになれば、その担い手をどのように確保していく、そのための施策をどういうふうと考えておられるか、これをお聞きしたいと思います。

委員長（徳並伍朗君） はい、村田市長。

市長（村田弘司君） 河本議員、本当に難しい問題ですよ。本当にそう思います。今、市の独自の事業がなかなか見られないというふうにおっしゃいましたけれども、確かに国にしる、県にしる、我々基礎自治体も非常に苦慮しておるのが現実です。国も今おっしゃったように、特定農業法人を作っていくということを目標にしておりました。一方ではしかし戸別農業所得補償制度を実施するという一方で、土地の集積化を進めるという大方針を持ちながら、一方ではある程度個人的なものについても保って行ってほしいということで、どちらを優先するというのがはっきりわからなかったという面があったんですよ。この国策としてですね。ですからこのことは、全国に自治体においても、我々中山間の市においても、どちらのほうを優先させていくのかということが明確でなかったということもありました。いかなせん先程南口議員のご質問にあったように、自主的な財源としての市税が17%しかないこの美祢市において、いかに頑張っても農業だけにお金を投下することは出来ない。全体的なインフラも含めてやっていく必要がありますんで、出来ないけれど、しかしながら、これも先程農林課のものと話したんですけれども、我々の市というのは観光立市の面もあるし、先程申し上げたように産業立市の面もある。しかしながらベースとして、この中山間である農地、林地、これがベースにできておる市というのは間違いありません。ですから、これが崩壊をしてしまうと、我々美祢市だけじゃあない。山口県、そして日本全体においても、恐ろしいことが起こってくるということを踏まえた上で、この24年度当初予算、この辺のことも組んでほしいということをお聞きした上で、今、伝えたばかりなんですけれども、なかなか難しいですね。難しいけれども難しいからってほうたっておくわけにはいかない。いずれにしても、今、担い手が不足しているとおっしゃいました。これは、間違いのない事実です。今、日本の人口は、これからどんどん減っていきますし、若い人たちが減っていく

から、そのこともあって都市部に集中していくという、この偏在性がさらに顕著になってくるだろうと思ってます。そうすると、全国のいつも申し上げるけど、国土の50%以上が過疎地なんですよね。それをわずか7%の国民が支えておるとい
う、この現実がさらに5%、4%の国民がその過疎地を支えるという状況になった
ときに、日本が日本として成り立ちうるかと。都市だけでは、この日本が成り立つ
はずがないですから。ですから我々は、この過疎地に住んでおる、この過疎地をど
うするかということをやっていく必要があります。これは、担い手が不足している
というのは、農業だけに特化して考えたらだめなんですよ。若い人がいないと担い
手がいませんから、若い人がここに住んでくれるというのは、やはり住んで楽しい
ことがなけんにゃあいいけん。刺激がなけんにゃあいいけん。そして住みやすい環境が
なけなくちゃあいいけん。そういうことを踏まえたことをちゃんとして、そして農
業もやってほしいということがないと住んでくれません。いくら農地があるから、
あんた帰って来てやってくれよ。どっかから来てやってくれよと言っても住んでく
れないんです。だから今、いろんなことを進めてやっています。インターネットに
ついて、MYTもありますけど、ちゃんとテレビがデジタルで見れる状況、そし
てインターネットも使える状況、そしてトイレもちゃんと水洗化された状況、いろ
んなことも含めて、そして、いろんな楽しい若い人が刺激あることが、若干でもで
きることがないと、若い人が住んでくれません。そういうことも含めた上で、農
業、農政というのは、その部分だけを見とったら、駄目になります。ですから全体
を考えて、いかにしてここに若い人に住んでもらうかと。それが後継者をつくって
いくことになりすし、しかし、冒頭申し上げたように、今、この国において、お
そらく特定農業法人までにもっていかないと、全部を保てないだろうということが
あります。でも今、美祢市の中でも法人として頑張っていたいただいておるのがたくさ
んいらっしゃいますけれども、まだまだ個人でやっていたいただいておるのがほとんど
ですので、じゃあこれをどういう形で法人化に結びつけていくかということ、大
きな命題として残っています。それも含めて、美祢市単独でいろんなちょっと知恵
を出してくれえと。それで私がちょっと考えてみるからということ、今、言ってお
るということです。あのね、河本議員、議員として提案して下さい。私、議員の
方々に申し上げたい。私も知恵を絞っている。職員にも知恵を出せって言っていま
す。提案型もほしい。だから未来創造交付金事業もやりました。いろんな市民の方
の思いも吸い上げて、そしていろんなことをやってみたいんです。いかにすれば美

祢市が保てるか、農地が保てるか、この国土が保てるか、ここが疲弊、衰退しないですむかということ、あらゆる手段をとろうとしております。また、来年度も市独自の単独事業、今作ろうとして言っておりますけれども、いろんな面を含めて総合的にやっていきたいというふうに考えてます。ですから、河本議員を含めて、議員さん方にどうかいろんな形で私に提案をして貰いたいというふうに思っています。それをまた市民の方にお示しして、これならいけるんじゃないかというのがあったら、それをまた予算化して事業化をしていきたいということもありますから、お願いをしたいというふうに思います。以上です。

委員長（徳並伍朗君） はい、河本委員

委員（河本芳久君） 市長の農業に対する熱い思いを持っておられることを、今のお話でわかりました。しかし、具体的に明日、来年の作付けをどうするかという、そういうこの問題が各集落にあるんです。誰かあの田んぼを引き受けてくれんかいのうと。農業委員さんがいろいろ世話をしても、もうあそこまで行かれんどとか。そして特定な、いわゆる担い手の人に土地が集積しても、年間1回しか草を刈らないとか、稗がたくさん生えた水田が広がっておるとか。現実にはある所には、農地が集まっても実際、経営的な面からすると、ほとんど採算が取れていない。そういう実態が今、美祢市内の各地に出現しておるわけなんです。そこで、今、提案と言われましたけれども、法人に移行するんだと、これが一つの日本の農業を守り、外国の貿易の自由化に対しても対処できるんだと、それがために20から30ヘクタールを一応経営規模に考えて、それに対する支援策も考えていこうと。大卒出来ておるようです。しかし、兼業農家も個別所得補償のように反当たり1万円は補償しますよ。そして価格補償もひとつ考えてみましょうということで、反当たりが去年は、30,100円ばかりの融資がございました。今年は半分になるかわかりませんが、これも兼業農家をやはり一定の役割を担っているということで、そういう戸別所得補償がなされておる。認定農業には、水田協からのいろいろ担い手的な支援策が少しありますけれども、制度的な一つの支援策は一切担い手には、認定農業者にはございません。かつて国は、認定農業者を育てるといふかなりの力を入れた制度をスタートさせましたが、これの見直しがどんどん凶られつつあります。そうすると、特定農業団体を作って、そこに次にステップとしては、法人に向かうための団体としてそれを組織化しましょうという、こういう制度を国はスタートを5年前しまして、そして、それに対する支援策もやりましたが、一挙に皆、法人化しなさ

い、そしたら手厚い支援策をやります、法人化が担い手だといいますと、一挙にそこに飛び越えていくことができないんです。そこで美祢市独自でいいから、次の担い手となる組織づくりをしていけば、それに対する機械の導入の2分の1補助をしますよと。今、機械を整備すれば1,000万円、最低でもかかっている。1,000万円を投資して2、3町の経営規模で農業が続けられるか。決して採算はあいませんし、続けられません。そうすると、やはり組織的な対応が必要になる。そのような法人や大型農家のような一つの主力のあるような形に育てるためには、やはり、前の段階の組織化に対する支援策を市独自で立ち上げられたら如何だろうか。かつては県にもあったんですが、県もその事業を縮小している。市独自には一切ありません。国の制度に乗ろうとしたら法人化です。やはりその点の具体的な施策を、市独自のものを、青写真を作って一つ農業振興にあたってほしいと。これが私の要望です。以上です。

委員長（徳並伍朗君） 10時からちょっと1時間過ぎましたので、11時20分まで休憩いたします。

午前11時11分休憩

午前11時20分再開

委員長（徳並伍朗君） 休憩前に続き会議を開きますが、先程河本委員の質疑にありました市内の社会教育施設等の利用者数の資料でございますが、ちょっと数字に訂正がありますので、山田教育委員会事務局長にお願いいたします。

教育委員会事務局長（山田悦子君） 大変申し訳ございません。先程提出いたしました市内社会教育施設等の利用者数の表でございますが、一行目の美祢市民会館平成22年度であります、割合について62.6%となっておりますが、6.26%の間違いでございました。大変申し訳ございません。訂正をお願いいたします。

委員長（徳並伍朗君） はい、それでそれでは質疑を続けます。萬代委員。

委員（萬代泰生君） ようやく順番が回ってきました。あまり長い質問はするつもりはございませんが、この度の決算委員会等で、担当者からそれぞれ説明があった訳なんでございますけれども、その中でそれをずっと皆さん方の説明を聞いていくながら不安に思ったことが2点ございますので、その点について村田市長にお尋ねしたいと思います。1点目はですね、この監査委員の指摘事項の中で、滞納整理等

の問題で、非常に収納率の低下、若しくは一進一退の状況というふうな表現がしてございますけれども、全体的にこの説明を聞いていきながらですね、近年非常に職員の人事異動が激しいといいますが、毎年毎年職員が入れ替わり立ち替わり変わってますよね。その点をすごく不安に思ってるのは、そういったことで、毎年毎年自分の担当する仕事ですね変わるわけですよね。当然変われば前任者から課題等の引き継ぎはなされておると思うんですけども、それが十分に理解出来てない。従って先程からいろいろとお話がある中においてですね、新しい独自の政策を考えようという市長が言われると思うんですけども、なかなかそこら辺でですね、新しい事業を自分が担当する仕事をですね、理解するまでにすごく時間もかかるだろうと思うし、それから議会でいろいろと質問されて、答弁されるについても、いろいろと悩んでおられると思うんです。そういったことで滞納整理、そういったこともなかなか前任者の経験を後任者が理解する時間がないんじゃないか。そういったことで、なかなか取り組もうと思っても難しい状況にあるのかなという不安を少し感じました。確かに合併以来職員が多いから、だんだんだんだん減らす必要があるという部分も理解出来ますけれども、そろそろ職員削減の限界に来てるんじゃないかなろうかというふうに私感じてます。それとこれ以上減らすようなことになると、また、そのひずみなんかも出て来るんじゃないかという不安感をちょっと覚えました。特に、この決算書の説明をする担当者も自信を持って説明がされてない、何か不安げな説明をされてるんで、それ以上突っ込んで質問するのも気の毒やなというふうな感じも受けたわけです。そういったことで市長とすれば、その財政そのものを健全化させるために、一生懸命というのは良く理解出来るんですが、やはり職員の勉強する時間も必要なんじゃないかと、そういったこと配慮していただいて、やはり収納体制については、職員全体で対応するというふうに総務部長は答弁されたと思うんですけども、そろそろもう限界に近い状態じゃないかと思いますが、市長は今の職員体制をどのように考えておられるのか一つ聞きたい。それともう1点はですね、災害復旧事業ということで、昨年、一昨年も美祢市大変な災害復旧、災害を受けて、確かに予算も大変な予算付けられて対応してきておられることに対して、大変住民の皆様は感謝しておられることと思うんですけども、ただ1点だけ、道路や河川、そういった対応は十分にされているんですけども、この治山事業というものの取り組み方が、これは確かに県の補助を頂かないとできないといいますが、ところが被災された住民の皆さんは、家の後ろにブルーシートが張ってあ

って、なかなか市のほうもすぐに県の枠がもらえないから、なかなか取り組みができないというふうに言われます。確かにその通りだろうと思うんですけども。しかし、被災された皆さん方は、雨が降る度にまた崩れりゃしまいかと、すごく不安な毎日を過ごしておられると思います。特に災害が多い東厚保、西厚保方面、そのほかにもあるわけですけども、家の後ろにブルーシートが張ってあることを目にするのが、すごく私も気になるわけでございまして、先程村田市長が議会側から提案もほしいというふうな話もありましたけれども、やはり、もう一つこの総合計画の中にも、誰もが安心して安らぎのあるまちづくりをするんだということを謳ってございます。その第一に居住環境の整備と定住促進というふうに総合計画の柱になっております。にもかかわらず、確かに治山事業実施しようと思えば、その県の事業をもらわないとできないという部分があって、なかなかそのジレンマがあると思うんです。そこで提案したいのはですね、何も県の事業を待たなくても良いじゃないか、何で単独の市費で対応できないのか、この治山事業の県の予算枠というのは、確か上限が600万で県が2分の1、市が6分の1、受益者が3分の1で、県の部分を除けたら300万の範囲。だから先だって報告で、この事業は何件残されてるのかということの質問に対して、農林課のほうからお答えになったのが30件、今年度平成23年度の事業を取り組もうという予算書を見ますと、3件実施するようになっております。だからこの県の事業を待っておってはですね、地籍調査と同じように何十年もかかるじゃないか。何とかこれはできないのかというのが私の質問なんです。確かに個人の資産の改良に繋がる部分もあって、受益者の負担率が大変高いんですけども、600万もするような事業をするというたら、そんなにあるわけじゃないと思うんです。だからおそらく150万か200万、あるいは多くいっても300万ぐらいで、この事業をやろうと思えばできるんじゃないかというふうに考えております。先だってこの質問をする前に農林課のほうにも調べてほしいということで、実際30件の残されてる内容はどうなってるのか、150万でもできるんじゃないか、200万でもできるんじゃないか、あるいは多くいって300万いるかもしれないね、そういったことをちょっと調査してもらうようお願いしておきましたけれども、やはり観光立市を目指してる美祢市、特に市内を車で観光客が通られる時に、ブルーシートがあっちこっちで見れるというのは本当に見苦しいというか、反対に美祢市の財政状況は非常に悪いんじゃないかというふうな感さえ与える状況にあると思うんですよね。だから災害復旧、ほかの事業について

は積極的に取り組んでいただいておりますが、この事業だけがどうも積み残しにされておるように思います。そこで、これは市長の英断を仰がなくてはいけないんですけれども、早くブルーシートが消えるような施策を検討していただきたいというのが2点目の質問あるいは要望でございます。以上です。

委員長（徳並伍朗君） はい、村田市長。

市長（村田弘司君） 萬代委員のご質問ですが、2点されました。まず1点目のちょっとここにメモしましたけど、職員の人員配置といいますか、その変えて行くローテーションが早すぎるのではないかと。そのこともあって今回の私、総括しか出ておりませんけれども、決算審査特別委員会で市の職員の答弁が非常に不安げだったというふうなことだったと思いますけれども、そういうふうな職員がおるかなと思いつつ思いよったんですがね。それはよっぽど質問の仕方がひどかった。私はですね現実的に言います。合併市ですので、かつての三つの自治体で勤務をしておいた職員が一つの市になって、一つの組織として働いてもらってます。ですから私は基本的に3年間、ホップ・ステップ・ジャンプという言葉がありますけれども、1年目はやる気になったら変わって10日間ぐらいで覚えられますよ。やる気になれば。死ぬ気になれば。自分で覚える。身につける。そして、自分で考えて判断をする。そしてやる力を付ける。3年あればできると思ってます。3年のローテーションで、私は基本的に変えて行こうと思ってます。これはやはり今、職員を減らしてます。職員を減らしても行政サービスは落ちてはいけないと思ってますので、それはやはり職員の資質そのものをあげていく必要があると思ってます。いつも言うように、職員が今まで100の仕事をしておったところを120、130してくれよと。あなたたちにはできる力があるんだからということを書いてます。ですから、その資質をあげるためにも、ローテーションをある程度きちっとして、職員異動を興すということをやっています。ぬるま湯になってしもうたらだめなんですよ。10年も20年も同じ所におって、なんかも分かったから、もう考える力がなくなると、思いがなくなるとということでは困りますので、ある程度刺激を与えてやっているんなことを覚えていく。基本的に私は、地方自治体の行政マンというのはジェネラリストと思ってます。ジェネラリスト、これは総合行政マンですね。大きな組織にありますとスペシャリスト、どんどん作って、そこに特化をさせて配属するほどの力があるわけですがけれども、基礎自治体のようなところはジェネラリスト、全てのことを経験をして、やれる能力を育てていくということが私は必要と思

ってますので、そのことを考えて人事異動を興してます。このことはご理解を賜りたい。このことによって住民サービスが劣化をした、低下をするというようなことがあれば、再度職員に刺激を与えて、気合いを入れて、勉強させて、仕事をさせるようにします。まだね萬代委員類似団体の職員数まで減らす目標持ってもう3年間で減らしました。もう目標数値を上回るスピードで職員を減らします。しかしまだ多いと思ってます。まだ減らそうと思ってます。でないと岡山委員のご質問でもあったけれども、この美祿市の財政力をきちっとしたものを保っていった職員の資質をあげていかないと、未来に渡っての美祿市を保てないんですよね。私は常にそのことが頭にありますので、職員の皆さんに、あんた方にはえらい目を合わせるかもしれんけれども、自分たちが美祿市の未来を担っておるという誇りを持ってやってくれというふうに言っております。だから勉強してくれよと。ですから今回の決算審査特別委員会だけではなく、今後議会の答弁において、市の職員が自信なさげに回答がするようなことがないようになると信じております。みんな下向いては困るけど、というふうにしたいと思っておりますから、ご理解を賜りたいというふうに思います。今、税のことをおっしゃいましたけど、このことも含めて税、先程南口委員のご質問の時もちょっと言いましたかね、税、料いろんなお金を頂戴して、大事な市民の方々のお金を頂戴をして、それを市民の福祉、それから住みやすさの向上のためやろうというふうにしてますので、直接的確な組織を作っていくということで、毎年組織もある程度変えて行ってますけれども、いろんなこと試んで、今までこうだったから、これから先もこれでいいんだよということは私大嫌いだからね。どんどんどんどん変えて行ってます。官僚出身の市長だからできないだろうとおっしゃったけど、恐らく職員連中からすると、私が知ってますから皆、どんどんどんどん仕掛けてくるんで、逆に怖いんじゃないかと思ってます。民間から入るとわかりませんからね。私分かった上でどんどんやってますので、非常に恐怖感を持っているかもしれんけど、それは皆さんをいじめるためじゃない、職員をいじめるためじゃない、市のため職員が資質をあげてもらうためにやってますので、理解してくれてると思ってます。それと今の小規模治山事業ですね。おっしゃるとおり、大変災害が21年、22年とありましたし、それ以前も大変水の多いところですので、裏山が崩れると、崩落するということは本当に多いですし、特に22年の大水害、その前の年の水害ですね大変たくさん出ました。県の事業が50%補助なんですけど、600万上限とおっしゃったけれども、その通りです。良くご存知で、

山口県中多いですね裏山崩落が。県というのは今お金がないお金がないお金がないとおっしゃって、どんどんどんどん県がやってた仕事を減らして行って、それを全部押しつけるという言葉へんですけども、我々市なり町にですね代わりやってくれと行ってきてます。今、どんどんどんどんそれを我々引き受けて、なおかつ財政力をちゃんと高めながら、県がやられた仕事もやって行くということに、どんどん変わって来てます。直接国と基礎自治体が直接やってやるということもやってます。ですから県の仕事は県の仕事としてあるけれども、県の役割というのはどんどんどんどん小さく薄くなってきてます。基礎自治体のやるべき役割は大きくなってます。その意味にもおいてですね、非常に長い年月をお待たせするということがありますし、それもやはり非常に不安もあるでしょうし、おっしゃったように、ブルーシートが何時までもあるというのは不安感を醸成をしますし、交流拠点都市たる美祿市にとってふさわしくないということがありますので、今、提案型でおっしゃいましたけど、非常に素晴らしい。実は私も考えております。今、それも指示しておりますので、恐らく今、萬代委員がおっしゃった思いの中、全てクリアしておるかどうかわかりませんが、財政的なもの考えた上で、早い段階でブルーシートを除けられるようにやろうと今思ってますので、ということで回答に替させていただきます。以上です。

委員長（徳並伍朗君） はい、萬代委員。

委員（萬代泰生君） 大変、私どもとすれば素晴らしい、今ご答弁を頂いたというふうに思います。やはり職員の問題については、以前に自殺した職員もありました。だから市長は職員に対して勉強せよと言ってプレッシャー与えられるのはいいんですけれども、それに応えられる職員と、それが今度はそれがためにうつ病になったりとかということも考えられます。そういったことも配慮して職員の指導に当たっていただきたいというふうに思います。それから今の治山事業のことですが、やはり観光立市を目指してる市長は、足元はなっちょらんじゃないかという批判を受けないように、やはり一生懸命取り組んで頂きたいというふうに思います。以上で終わります。

委員長（徳並伍朗君） ほかにありませんか。はい、山本委員。

委員（山本昌二君） 失礼します。この前からのいろんな決算報告あるいは執行部からの説明で、いろんな資料があるわけですが、特にですね決算意見書では監査委員の報告書がありますが、50ページ、そして成果報告書では13ページに具体的

に記してありますが、経常収支比率のことが掲載されております。我々はよく標準財政規模ということで新聞紙上に出るときはですね、標準財政規模でよく出されておって、この前も質問がありまして、執行部から一番のあれは75%というご説明がありましたが、美祢市もですねこの3年間においてその実績の成果が上がってですね、90%台であったものが80%台に下がっておるということで、非常に僕は執行部の皆さんのですねご努力を素晴らしいものであるというふうに思っております。そこでですね先程からの質問の中で、市長さんが親切丁寧に答弁されましたが、やはり人件費の削減がこの経常収支比率の低下に繋がっているということも思いますけれども、やはり美祢市はですね、面積が山口県でも6番目に広い市なんですね。全部で大きい市もあれば小さい面積の市もありますけども、13市のうち6番目に広いということで、しかも人口がその割合にして密度が低いということですね。行政の地域振興発展に対するの努力は相当なものがあると私は感じております。その辺につきまして、改めてまた日常のあるいは日頃の同じような意味合いでございますが、皆さん方がよく市の車でですね、あちこちいろいろと現場のほう行っておられますし、時には山の中で出会うこともあります。市の車にですね。非常に苦労しておられる部署もありますし、皆さんも努力しておられます。その辺について市長さんまずお褒めの言葉を贈っておきたいとこれは目で見たことであります。いろいろ見守り隊というか、いろいろな地域の安心・安全のためにあちこちちしておる中で出会ってることもたくさんあります。まずご報告しておきます。そこで次にお願いが、纏めて市長さんちょっとお願いがあるわけですが、この先程も出ました人件費のことが出ましたが、やはり私は職員を減らすということは、先程もちょっと話が出ましたが、これは果たしてすぐこの面積の割合からして、若干問題視もあるんではなからうかというふうに思います。やはり美東の支所に行っても、秋芳の支所に行っても、市民の皆さんが非常にまた市役所まで行かんやあいけん、時には電話でも聞かなければいけないということで、非常に市民のお年寄りの方はどねいかならんじゃろかと、合併して3年、来年4年になるが何かこの辺をですね、もう少しやっちゃもらえまいかというようなですねご意見があちこち耳にしますが、市長さんこの辺につきましてもご配慮を頂ければということで、お願いを申し上げたいと思います。につきまして市長さんの考えを少しよろしく願います。

委員長（徳並伍朗君） 質問ですか、お願いですか。質問ですね。（発言する者あ

り)はい、村田市長。

市長(村田弘司君) 山本委員、議員として、個人的な活動として、美祢市の安全・安心のまちをつくるために非常にご活動されてる私もよく存じ上げておりますので、先日も中国地方の表彰を受けられたということもよく存じ上げております。その合間に市の職員がやってるのを見ておられるんだろうと思います。今の経常収支比率のこと冒頭申されましたけれども、なかなか経常収支比率という言葉は専門的で分かりにくいから、せっかく今、MYT流してもらってますので、経常収支比率というのは良く耳にする言葉ですね。新聞にもよく載ってます。分かりにくいんですが、いろんなお金が入ってきます。市の中にね。経常的に入ってくるお金、いつも経常的に特別のお金じゃない、経常的に入ってくるお金ですね。この歳入がどれほどの量を経常的なもの、常に使わなければいけないもの、人件費がもっともなものですよね、に充当されておるか、使われておるかということをあらかず数字です。ですから経常的に使ってるお金が分子、経常的に入ってくるお金が分母で、割った時に100%になってしまうと、いつも経常的に入ってきてるお金が全て経常的なお金で使われておるということは、逆に言うたらですよ、道路を良くしようとか、ここに橋がないから橋を架けようとかいうお金に使えませんので、建設的な投資的なものにお金を使うことができなくなるということですから、非常に財政が硬直化しておるということになります。ですからこの数値が低ければ低いほど、自治体の財政力の弾力性があるということを表してる数字です。合併をしまして今、22年度80%台になりました。合併直後はこれは3ヶ年平均を用いるんですが、90%超えておりましたので、合併直前が92.8ですね合わせて。今が86.9ですから、非常に数値が改善されて来てます。ですから美祢市の財政力というのは、弾力性が大きくなってきておるということがこれでわかるということですね。それと関連で申された、先程の萬代委員の時もお答えした職員の数ですよ。まだちょっと多いと思っております。まだ圧縮しようというふうに思ってますけれども、これが過度に過ぎてしまうと、今おっしゃったように住民サービスが損なわれるということがありますので、これはバランス感覚が必要です。特に合併市ですので美東総合支所、秋芳総合支所の周辺にお住まいの方、特に火が消えたようだというふうな思いになられる。これは合併市の宿命的なところがありまして、それを感じさせないと、させないようにするというのも、市長たる私の役目だろいうというふうに思ってますので、その辺を十分配慮した上で、これから人事について、人事だけに限らず、

ほかのこともやらせていただきたいというふうに考えております。以上です。

委員長（徳並伍朗君） ほかにありませんか。はい、田邊委員。

委員（田邊諄祐君） 市長は市長なりにいろいろ苦勞されていると思いますけど、74ページをちょっとご覧になって頂きたいと思うんですけど、主要施策成果報告書のこれの秋芳の南と北中学校の同改築工事に約7億4,965万2,000円ということで、大盤振舞じゃないかと大変心配してます。更に話によりますと、大嶺中学校も何か新しくされるそうなんですけど、今年度ですか。私休んでましたので、その時に意見を言おうと思ってましたけど、残念ながら言わなかったんですけど、といますのは安全・安心な確かに必要ですけど、まずその前に学校、例えば大嶺中学校であれば豊田前、厚保中、於福中学校の統合決めてから増改築やること、それから嘉万に対しては南と北と統合した上で、安全・安心なできるような校舎を建てるのは結構だと思いますけど、今、国は1,000兆円の借金をしてます。しかも企業が今日本で設備投資をしてもうまくいきませんので、銀行は皆さんが一生懸命働いてやったお金をです企業は金を借りないで、国債を銀行はです企業、例えば今年度予算、国の予算がだいたい九十何兆円の中の44兆円というのは国債を買うようにしてますけど、日本の銀行というのは、44兆円を日本の銀行が買うようにしてます。しかしながら銀行のほうもです企業は金を借りませんので、大変困ってますね国債も将来買わなくなりますので、日本の予算は4、5年先には恐らくパンクするんじゃないかと大変心配してる中で、やはり国も県もそういうことを考えずに、高度成長以後です企業を甘やかしたのか、役人も責任があると思いますけど、非常に借金をしてです企業、このままいって今1,000兆円ですから、一人当たりだいたい800万円から900万円の借金をしてる状態の中で、このように設備投資をするというのは如何なものか。市長はさっき説明の中で大変国の予算は心配してると言われますけど、やはり国がだめになれば当然地方ももうむちゃくちゃになりますし、大困難が起こって、ギリシャを想像して頂ければ分かりますけど、ああいう状態になるんだらうと思います。従いまして、やはり、それから税金の取り立てになったら、皆んな一生懸命本気になります。税金を取るほうも、取られるほうも、我々も税金が非常に納めるのが最近高いので非常に苦痛に感じています。ここにおられる皆さんもそういうふうに思われますけど、国のほうも更にまた増税をしなければならぬような経済状態でございますので、とにかくやはり地方が節約してなおしていかないと、日本経済は成り立たないと思うんですが、その

辺市長いかがでございますでしょうか。まずその質問からお願いします。それからもう一つはですね、私は子どもが育つのはお金や設備じゃなくて、やはり親の背中を見て育つということは、親がですね仕事成功しようがうまくしようが、真面目に一生懸命やること、それから社会に対しても真面目にやること、それから教師の影響、それからもう一つはお世話になった周囲の皆さんの影響があると思います。決して設備で子どもが育つわけではないと思いますし、これからの日本は育てるには、今の借金は民主党がだいたい10兆円、いろいろ子ども手当何とかに10兆円出すだけでも大変なのに、今の10兆円を1年間で返していっても、1,000兆円といたら100年かかるわけですね。ひ孫の代まで借金を背負うて、子どもたちが苦労するようになると思うので、とにかくそういうことで、安心・安全も確かに必要なんだけど、全日空の稲森さんが言われますように、金がなくては安心・安全も守ることができないんですね。そういうことで私は今的美祢市の施設はですねやっぱり使いすぎなところがあると思いますが、如何でございますでしょうか。以上の2点でございます。

委員長（徳並伍朗君） 田邊委員、今決算の審査委員会やってるんですね、次の一般質問でして下さい。これは市長が答える必要はございません。議員が認めることですから。その他ありませんか。

委員（田邊諄祐君） ちょっと待って下さい。私が質問するのを抑えるんですか。私は皆さんと同じような質問されてるじゃないですか。（発言する者あり）あなた方はね違うかも知れませんが、あなた方は市の仕事をもらって、ある程度恩恵を受けておられるかも知れませんが、一般市民は受けておりませんので、一般市民の意見も必要だと思います。私は一般市民の意見を聞いて、初めて発言してるんですから、この機会しかないじゃないですか。（発言する者あり）

委員長（徳並伍朗君） はい、村田市長。

市長（村田弘司君） 田邊委員、あなたがお質問されたんでこの場合は委員長が発言許すか許さないかにかかっておりますけれども、発言は認めないとおっしゃったけど、私のほうからお答えをさせてもらうということで、今申し入れをさせていただきましたので。それにしても田邊委員、発言に気を付けられたほうがいいと思いますよ。秋芳、それから美東の学校の耐震補強工事、大盤振舞で無駄な金を使っておると。今度は大嶺中に無駄な金を使うというふうな言葉を申されたけど、言葉に気を付けられたほうがいいですよ。あなたはこの22年度決算ですよこれは。22

年度あなたは議員だったはずですよ。すべてこの説明を聞いて、賛成をして、執行したことを今報告をしてる決算委員会ですよ。おまけにですよ、これは耐震力が弱いから、大きな地震が来たら今にも崩落してしまうから、早急に補強工事をしなければいけないということで、国にお願いをして国の補助金をもらって、やった工事ですよ。それをあたかも無駄な工事、あなたは未来を担う子どもたちが大事じゃないんですか。大事でしょう。これを認めないとおっしゃるんなら、私はね税金の無駄遣いとおっしゃったけど、あなたの報酬は議員報酬は税金から出てるんですよ。もう少ししっかり勉強をして頂きたいということです。

委員長（徳並伍朗君） 質問なしと認め質疑を終わります。それではこれより採決に入ります。議案第16号平成22年度美祢市一般会計決算の認定についてを採決いたします。本案に対するご意見はございませんか。はい、南口委員。

委員（南口彰夫君） 22年度美祢市一般会計決算の認定については、日本共産党は反対です。しかしながら先程市長がお答えになったように、約30億足らずの予算で160億の事業をやると、これどう考えても小学生のこどもが考えてもつじつま合わないんです。しかしこれだけに事業をやらなければ、市民の安心・安全を守ることはできないというお話を繰り返さされています。私も議員として、医療、教育、福祉充実させてと、しかも市道、上下水道、インフラ整備もより一層充実してと、たいがい好き放題のことを言わせていただいております。しかしながら、これを全て実現するには、あまりにも脆弱な市の税制ですから、無理かなという思うふしもあるんです。ところが私は基本的にまず市長の政治姿勢、このことについては相反する立場で常にものの考え方、意見を述べていますので、賛成することができません。基本は何かといえば、ちょっとは無理かなと思うけど、今の旧従来の自民党政権、それから更に引き継いだ民主党政権、国のそれを本当に国民の立場でという税制の流れの中で、県を通じて先程もあったように学校の耐震性も含めて、いろんな予算が流れてくるんですね。その組み立て方一つが、美祢市をどうする、市長としてどうしよう。それから職員の話がでてきましたけど、これは公務員の給料が高い、高いのは当たり前なんです。全体の奉仕者だからなんです。私たち一人ひとは家庭なり地域を一生懸命守ろうとするが、公務員の場合は全体の奉仕者であるという崇高な理念と責任があるわけです。だから公務員の給料は高くても当たり前。しかしながら、それも含めて残念ながら結論的には分かりにくいだろうと思うんです。残念ながら、この一般会計決算の認定については反対であるとい

うことです。以上。

委員長（徳並伍朗君） その他ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 意見なしと認めます。本案について原案のとおり認定することに賛成の方の挙手を願います。

〔賛成者挙手〕

委員長（徳並伍朗君） はい、ありがとうございました。挙手多数であります。よって本案は原案のとおり認定されました。1時まで休憩いたします。1時から開催いたします。

午後0時02分休憩

午後1時00分再開

委員長（徳並伍朗君） それでは休憩前に続き会議を開きます。

議案第17号平成22年度美祢市国民健康保険事業特別会計決算の認定についてを採決いたします。本案に対するご意見はございませんか。はい、三好委員。

委員（三好睦子君） 国保税の滞納や支払が遅れている方に短期証が発行されていますが、国保税の支払いがないとその短期証が交付されない、保険証が交付されないということはその留置期間の間は無保険と同じではありませんか。こうしたお金がないことで命を差別する制度に反対です。この議案に反対です。

委員長（徳並伍朗君） その他意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） それでは本案について原案のとおり認定することに賛成の方の挙手を願います。

〔賛成者挙手〕

委員長（徳並伍朗君） はい、ありがとうございました。挙手多数であります。よって本案は原案のとおり認定されました。

議案18第号平成22年度美祢市観光事業特別会計決算の認定についてを採決いたします。本案に対するご意見はございませんか。はい、岡山委員。

委員（岡山 隆君） この度の平成22年度美祢市観光事業特別会計の認定でありますけれども、しっかりと認定、賛成ということで討論させて頂きたいと思っております。こういった観光事業の特別会計資金不足比率が、合併当初169.5%、

今回平成22年度の決算末では、それが128.7%ということで、その経営健全化基準は20.0でありますから、まだまだ厳しいなりに、合併からこの指数がかなり良くなっているということで、これが逆に私は指数が横ばいか、逆に資金不足比率が高いまま維持しておれば、こういった予算については反対するわけでありませぬけれども、そういった面におきましては着実に前進してるということで賛成します。それで特に合わせて要望なんですけれども、秋芳洞、そして景清洞、大正洞、また養鱒場等こういった主要なところは、結構予算がついていろいろ整備されております。しかし今回関東地方の方が美祢市の観光に来られまして、伊佐町の大岩郷とかそういった施設を回った時に、その遊歩道、そういったところ行くまでの道が非常に悪いと。歩いて草ぼうぼうで、歩いて行くのに大岩郷行くまでに、本当これが観光地かいなという、そういうイメージを受けたというんですね。案内する人も一生懸命案内したけれども、そうやって来られた方がそのように感じられたというんですね。これでは何と申しますか夢、希望、誇りを持つ交流拠点都市美祢市として少しどうなんかなという思いがいたします。また観光立市美祢市ということでありますから、どうかこういった観光マップに大岩郷も大きく取り上げておられる部署で観光地でありますので、もう少しそういった面、ちょっと起債をおこしていかにや、行かなくてもいいと思うんですけれども、その辺を予算をやりくりして、もう少し現地を確認をされて、本当に観光に来られた方がこの大岩郷もなかなか良かったぞとそういう形で、どうか観光地の整備も合わせて押し進めて頂きたい。こういった要望を踏まえて賛成ということで、提案型の賛成ということで、賛成討論といたします。以上です。

委員長（徳並伍朗君） その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 本案について原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 全員異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり認定されました。

議案第19号平成22年度美祢市環境衛生事業特別会計決算の認定についてを採決いたします。本案に対するご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 本案について原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 全員異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり認定されました。

議案第20号平成22年度美祢市住宅資金貸付事業特別会計決算の認定についてを採決いたします。本案に対するご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 本案について原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 全員異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり認定されました。

議案第21号平成22年度美祢市老人保健医療事業特別会計決算の認定についてを採決いたします。本案に対するご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 本案について原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 全員異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり認定されました。

議案第22号平成22年度美祢市農業集落排水事業特別会計決算の認定についてを採決いたします。本案に対するご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 本案について原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 全員異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり認定されました。

議案第23号平成22年度美祢市介護保険事業特別会計決算の認定についてを採決いたします。本案に対するご意見はございませんか。三好委員。

委員（三好睦子君） 介護保険給付額に、決算では不用額が多く残ってます。介護制度があっても、利用料が高くて介護が受けられないといった、そして介護保険も高いところといった制度に反対です。

委員長（徳並伍朗君） その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 本案について原案のとおり認定することに賛成の方の挙手を願います。

〔賛成者挙手〕

委員長（徳並伍朗君） はい、挙手多数であります。よって本案は原案のとおり認定されました。

議案第24号平成22年度美祢市簡易水道事業特別会計決算の認定についてを採決いたします。本案に対するご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 本案について原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 全員異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり認定されました。

議案第25号平成22年度美祢市後期高齢者医療事業特別会計決算の認定についてを採決いたします。本案に対するご意見はございませんか。三好委員。

委員（三好睦子君） この制度は、夫婦でありながら75歳で線引きがしてありますので、夫婦でありながら、国保と高齢者に別々に加入しなければならないといったそういった面で負担が重くなっています。年齢を差別して高齢者の医療費の抑制を目的としたこの制度に反対です。

委員長（徳並伍朗君） その他ご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） 本案について原案のとおり認定することに賛成の方の挙手を願います。

〔賛成者挙手〕

委員長（徳並伍朗君） はい、ありがとうございました。挙手多数であります。よって本案は原案のとおり認定されました。

以上で、本委員会に付託されました議案10件につきまして、すべて審査を終了いたしました。それでは、その他、委員の皆様から、何かございましたら、ご発言をお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） はい、それでは委員の皆様には、3日間にわたり熱心なご審査をいただき、誠にありがとうございました。なお、説明員の皆様、大変お疲れ様でございました。なお、この決算審査特別委員会は、会議予定表では、明日までの4日間の予定にしておりますが、本日で審査を終了いたしましたので、これにて本委員会を閉会いたします。お疲れ様でございました。ありがとうございました。

午後1時12分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成23年10月17日

決算審査特別委員会

委員長

